

【問 23】あなたが抱く産科診療所に対するイメージにはどのようなものがありますか。あてはまるところに○をつけてください。

	1 とてもそう 思う	2 まあそう 思う	3 あまりそう 思わない	4 全くそう 思わない
1) 外来から入退院まで一連のケアが継続して行える	1	2	3	4
2) 助産技術を修得し自立して助産業務を行うことができる	1	2	3	4
3) 妊産婦の生活に応じたケアができる	1	2	3	4
4) 妊婦さんに接する時間がゆっくりとれる	1	2	3	4
5) 期待できる給料がもらえない	1	2	3	4
6) 残業が多い	1	2	3	4
7) 休暇がとりにくい	1	2	3	4
8) 夜勤が多い	1	2	3	4
9) 妊産婦へのメンタルケアが充実している	1	2	3	4
10) 母児へのきめ細かな対応ができる	1	2	3	4
11) 分娩介助等の業務に主体的に取り組める	1	2	3	4
12) より自然な出産に関われる	1	2	3	4
13) 責任が重い	1	2	3	4
14) 先輩・同僚からの指導が受けられない	1	2	3	4
15) 研修等に参加できない	1	2	3	4
16) カンファレンスの場がもてない	1	2	3	4
17) 助産師業務以外の仕事業務が多い	1	2	3	4
18) 母乳育児の支援が充実する	1	2	3	4
19) 助産師としてのスキルが磨ける	1	2	3	4
20) 分娩時のオンコール体制がある	1	2	3	4
21) 医師(経営者)との人間関係が難しい	1	2	3	4
22) 助産師以外の他職種との人間関係が難しい	1	2	3	4

【問 24】産科で期待される助産師の能力はどのようなものがあると考えますか。あてはまるところに○をつけてください。

	1 とてもそう 思う	2 まあそう 思う	3 あまりそう 思わない	4 全くそう 思わない
1) 正常分娩の介助が1人でできる	1	2	3	4
2) 妊婦の健康診査と経過診断・保健指導ができる	1	2	3	4
3) 外診や内診ができる	1	2	3	4
4) 分娩監視装置の装着と判読ができる	1	2	3	4
5) 妊娠期・分娩期の異常の判断やその援助ができる	1	2	3	4
6) 正常新生児の健診と保健指導ができる	1	2	3	4
7) 新生児の観察により正常と異常の判断ができる	1	2	3	4
8) 正常褥婦への健康診査と経過診断・保健指導ができる	1	2	3	4
9) 育児指導(母乳育児指導、沐浴、育児法等)ができる	1	2	3	4
10) 乳房管理ができる	1	2	3	4
11) リスクマネジメントに対する知識と判断力がある	1	2	3	4
12) 医師(経営者)との人間関係を円滑に保つことができる	1	2	3	4
13) 同僚との人間関係を円滑に保つことができる	1	2	3	4
14) 地域の住民と信頼関係を築くことができる	1	2	3	4
15) 産科診療所の経営に理解がある	1	2	3	4
16) 妊産婦や地域住民とのコミュニケーション能力がある	1	2	3	4
17) 妊産褥婦・新生児の状態を医師への的確に伝えることができる	1	2	3	4

【問 25】あなたは産科診療所での就業についてどのようにお考えですか。当てはまるもの1つに○をつけてください。

- 1. ぜひ働きたい
- 2. 選択肢として考えたい
- 3. 気がすすまない
- 4. 働く意向はまったくない

※ 問 25 で回答番号 1、2、3 を選択した方は以下の質問にお答えください。回答番号 4 を選択した方は問 33 におすすめください。

【問 26】働くとしたら、どのような勤務形態を希望しますか。

- 1. 常勤
- 2. 非常勤（嘱託・パート・アルバイトを含む）

※ 問 26 で回答した勤務形態で働く場合の希望条件をおたずねします。

【問 27】勤務日数についてあてはまるもの1つに○をつけてください。

- 1. 週 5 日程度
- 2. 週 3～4 日程度
- 3. 週 1～2 日程度
- 4. その他（ ）

【問 28】1日の勤務時間についてあてはまるもの1つに○をつけてください。（休憩時間を除いてお答えください）

- 1. 7～8時間
- 2. 5～6時間
- 3. 3～4時間
- 4. その他（ ）

【問 29】希望する勤務体制についてあてはまるもの1つに○をつけてください。回答番号 6 を選択した方は（ ）内に希望回数もご記入ください。

- 1. 日勤のみ
- 2. 月 1～2 回程度の夜勤なら可能
- 3. 月 3～5 回程度の夜勤なら可能
- 4. 月 6～8 回程度の夜勤なら可能
- 5. 月 9 回以上の夜勤でも可能.
- 6 夜勤のみでも可能（ ）回／月
- 7. オンコールなら可能
- 8. その他（ ）

【問 30】希望給与額（税込み総支給額）はいくらですか。回答可能な給与形態すべてをご記入ください。

- 1. 月給 | | | | | | | 円以上
- 2. 時給 | | | | | 円以上
- 3. 日給（昼間 8 時間勤務） | | | | | | | 円以上
- 4. 夜勤当直（夕方 17 時から翌朝 9 時） | | | | | 円以上
- 5. 分娩オンコール 1 件につき | | | | | 円以上

（産婦の陣痛発来入院から分娩後 2 時間までの概ね 15 時間程度の拘束）

【問 31】あなたが産科診療所に就業する際、以下の条件をどれくらい希望しますか。あてはまるところに○をつけてください。

	1 とても希望する	2 やや希望する	3 あまり希望しない	4 全く希望しない
1) 託児所がある	1	2	3	4
2) 産前・産後の休暇が取れ、勤務のなかで授乳や子育ての時間がとれる	1	2	3	4
3) 子どもの病気や行事のときには休暇がとれる	1	2	3	4
4) 残業がなく夜勤ができなくても就業できる	1	2	3	4
5) 病院で働く場合とほぼ同額の給与が確保される	1	2	3	4
6) 助産師としての業務に集中できる	1	2	3	4
7) 複数の助産師がいる	1	2	3	4
8) 柔軟な勤務体制のなかで働くことができる	1	2	3	4
9) 院内における教育支援体制がある	1	2	3	4
10) 院外研修に出席できる	1	2	3	4
11) 同僚が助産師の活動に対して理解・支援をしてくれる	1	2	3	4
12) 分娩のないときは夜勤をせず、分娩があるときだけ当直で働く	1	2	3	4
13) 医師(経営者)が助産師の考え方に賛同してくれる	1	2	3	4

【問 32】就労希望時期はいつごろですか。あてはまるところに○をつけてください。回答番号2、3を選択した方は（ ）内に就労希望時期もご記入ください。

1. すぐにでも働きたい
2. 約何ヶ月後に働きたい（ ）ヶ月後
3. 約何年後に働きたい（ ）年後
4. わからない

【問 33】産科診療所での就業を希望しない理由としてあてはまるものすべてに○をつけてください。

- | | |
|---------------------------------|--------------------------------|
| 1. 希望する給与がもらえないと思う | 2. 残業が多く休暇が取れないと思う |
| 3. 夜勤はできない | 4. 保険や社宅などの福利厚生が整っていないと思う |
| 5. 予定外の残業がある | 6. 助産師業務以外の多くの雑務をやらなければならないと思う |
| 7. 技術指導が受けられないと思う | |
| 8. 医師や古くから勤めている職員とうまくやっていく自信がない | |
| 9. 研修会等に参加できないと思う | |
| 10. 子どもが生まれると預けるところがなく働けないと思う | |
| 11. 体力的な負担が重いと思う | 12. 少ない人数のなかで働くので責任が重く自信がない |
| 13. 現在就業中であり、今の職場で満足している | |
| 14. 産科診療所に限らず今は働く意志がない | |
| 15. その他（ ） | |

【問 34】助産師としてのスキルアップ研修などの研修が開催される場合、参加を希望しますか。

1. 参加したい

研修で受けたい内容は何ですか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

- | | | |
|--------------------------------------|-------------------|-----------|
| 1. 分娩介助等の実技演習 | 2. 最近の産科管理 | 3. 母乳育児管理 |
| 4. 超音波分娩監視装置など最近の医療 | 5. 妊婦健康診査・標準的保健指導 | |
| 6. 妊・産・褥婦のケアと実際 | 7. 助産記録のあり方と実際 | |
| 8. 産科救急の対処 | | |
| 9. アクティブバース・フリースタイル出産など様々な出産スタイルについて | | |
| 10. 産科の医療安全と事故防止 | 11. 子育て支援と虐待防止 | |
| 12. コミュニケーションスキル | 13. 助産師のキャリア開発 | |
| 14. 新生児のケアと実際 | 15. その他（ ） | |

2. 参加したくない
3. わからない

【問 35】近年、人材サービス会社等ではキャリアカウンセラー（個人の興味、能力、価値観、その他特性をもとに個人にとって望ましい職業選択を援助し、キャリア支援を行う専門職）による就業支援が重要視されています。もし、キャリアカウンセラーが身近にいる場合、就職活動に活用したいと思いますか。

1. 活用したい 2. 活用しようと思わない 3. わからない

【問 36】今回の調査に関するご意見がございましたらご記入ください。

質問は以上です。ありがとうございました。

会 議 録

1. はじめに

本研究班の目的は、以下に述べる周産期医療の現状から、病院勤務助産師の持つ診療所に対するイメージ、診療所への異動の意向の有無を明らかにし、病院勤務助産師の診療所への異動条件を提言することである。

本研究の先行研究として、①潜在助産師の調査(日本看護協会ナースセンター事業部本日配布資料1)、②助産師の質、助産師の経験年数による能力に関する調査(日本看護協会助産師職能委員会 齊藤担当)がある。

1. 日本の周産期医療の変化

①施設環境の変化:

医師の高齢化、勤務条件の悪化や訴訟問題など後継者不足、さらに少子化による産科診療所の閉鎖。少子化、市場規模が縮小している。産みたい人が近くの病院がない。へき地は人口減少の地域。一時に比べると、産科の医療機関、昔は助産所で出産していた。僻地で経営が成り立たないところは、閉鎖しているのは現実。

②出産に対するニーズの変化:

全国に約 3,300 の出産施設がある。出産人口は減少している。産婦の産むことに対するニーズとして安全性や快適性など、多産時代にはあまり求められなかったことが求められている。医師の産科離れという現実もあり、助産師の数を確保することが、周産期医療を支えることになる。医師はハイリスク、ノーマルは助産師というような機能の分化を進めている状況もある。

2. 内診は助産師・医師の独占業務

昨年、看護師による内診の合法性について、分娩進行中の診察は、医師と助産師の独占業務となった。しかし、診療所に勤務する助産師は少ない。医師不足、助産師不足のなかで、どう対応したらよいのか、医師から、助産師が診療所に就職するのか？という意見がある。

3. 助産師の就業状況

助産師数 4 万 7 千人(昭和 23 年に保助看法が制定されて免許を交付した人数)。現在約 26,040 人が就業届を提出。2 万人は免許を持っているが勤務していない。しかし実数は不明。

→約 2 万 7 千人の勤務していない潜在助産師の職場への復帰に関する検討の必要性。

→病院勤務助産師はあまり職場異動しない。分娩件数が減っているにもかかわらず、職場異動しない。現在の周産期をめぐる状況から、実践のパワーを持つ現在働いている助産師を異動させる方策を検討することが求められている。

実働している助産師の統計は、2 年に一度調査している。出産数は人口動態統計である。産科医の数はある。これらの産婦人科数、助産師数、出産数の 3 つをクロスしたグラフを作成する。医師 1 人あたり、助産師 1 人あたりの出生数が、増えているのか？→変化はしていない。産むという状況に対するニーズや期待、責任が非常に違う。ケアにかかる質や要求されるレベルは高くなっている。

4. フリーディスカッション

Q. 産婦のニーズの変化(安全性やケアの質を求める)に関するデータはあるのか？

- ・ 帝王切開率は上昇している。現在の、外来診療時間の調査はあるが、過去のデータがないだろう。比較ができない。
- ・ 産科医でお産、40～45%。これらの人たちへの助産師のケアが行き届いていない。利用者のケア提供者による満足度は違うと推測されるが、エビデンスとしては弱い。
- ・ 助産師の必要数は、どうやっても出てこない。試算をすると現在より1万人は必要。
- ・ 数値だけでは見えない、1人あたりのケアに対する助産師のケア、ケアの質が求められている。診療所の分娩件数と助産師の数、施設の分娩件数と助産師の数から、1人あたりの分娩件数が出る。

Q. 助産師として、お産に立ち会っている人が、病院で、診療所で何人いるのか、看護師が何人いるのか、というデータはあるのか？

- ・ 9月の時点での出産数、1人？以上出産している施設は1500と1800施設。
- ・ 雇用者は、助産師は給料が高いというが、実際にはあまり違いはないと思う。
- ・ 診療所において、その人が助産師なのか否かわからない。

Q. 潜在的な助産師を活用したいということと、質をあげるために大きな施設でレベルを上げた助産師を診療所で活用できないか？

- ・ 自発的には異動しにくい、「出向」してといても難しい。
- ・ 今回の調査結果から、施設の異動数はあまり多くないことがわかった。働き続けている人たちは、潜在助産師とは移動の理由が違う様子がある。
- ・ 看護の繁忙度と、満足度は反比例しているという調査結果がある。
- ・ 混合病棟か単科病棟かによる仕事の充実感や満足度が違うかもしれない→問21確認。
- ・ 診療所の給与体系が公表されているのか？助産師の給与基準はない。今回助産師の基本給与水準を出すことも目的。
- ・ 最低水準35万。医会の試算は、1件あたり60万らしい。助産師の質は目に見えないから、給与に反映されにくい。
- ・ 分娩手当金は30万、今年から35万になる。医師会による1件あたりの出産の試算は、60万。お産1件について、産婦ではなく、病院にお金が付くのか？という政策の問題になる。
- ・ 利用者から見て、質が高く高い施設か、最低の安全は守られている安い施設か、であれば利用者としてはどちらを選択するか？後者を選択する人も多いだろう。

II. 調査の概要

対象施設: 助産師会員が25人以上いる日本看護協会会員の139施設。施設の特徴として2、3次搬送施設が多い。比較的規模の大きな施設、定年がある。県による施設数の差がある。回収の無い県(一)は、石川県は返送なし。他の県は該当施設がなかったところ。

調査用紙配布枚数: 助産師が25名以上いる施設は各施設ごと10部、助産師の数が33人以上いる施設は20部配布。2000部配布。800部返却。40%見積もりで委託したためだろう。

調査対象助産師: おおむね経験年数が5年以上、27歳を配布対象として依頼。就職初回の施設は、教育設備の整備、先輩がいるなどという条件で職場を選んでいるため、5年以上の勤務年数の助産師を対象とした。

III. データに関する意見

問3, 4, 5: 子どもない人は、自分が収入源が多い。独身が多いのだろう。

問5: 子どもの世話の環境を整えることができるために、勤続していられるのだろう。潜在のデータとは違う。

問6: 高齢者を抱えている人が少ない。潜在助産師も非常に少ない。

問7: 助産師は 100%。30、50 歳代の人が、看護師免許がなく、助産師免許があるという人のようだ。つけ忘れ？入力ミス？

問9: 助産師免許取得年数から経験年数がわかる。ここ 10 年以内くらいの人が多い。

問 10: 免許を取得した年齢と分娩介助件数は比例するのではないだろうか？高齢の人たちは、管理職の可能性もある。1980 年 25 年。45 歳くらいまでは、経験年数と比例して分娩介助件数が比例していそう。

問 11: 乳房管理は潜在のデータと比べると高い。リプロ、1 ヶ月健診、家庭訪問は実施している割合が低いという今の施設の業務内容を反映している。

問 14: 100%病院勤務のはずだったが、2 名その他がいた。

問 15: 病院全体の病床数が入っていると思われるデータが多い。1000 床以上の施設が多い。このデータは信頼性低い。

問 15: 病院全体では 25 名いる施設対象。平均助産師数が 35 名というのはい多いのではないか？これは調査対象施設の平均であって、日本のデータを反映しているのではない。

問 15: 月分娩件数、中央値で 65 件。平均は 154 件。

問 16: 産科単科と混合病棟の比較ができる。

問 17: 勤務年数は 5 年未満、約 5%。平均 8 年 6 ヶ月。勤務年数が長い方が多いデータ。中央値では、60 ヶ月、5 年が多そう。

問 18: 役職は 3 割。

問 19: 4割は職場異動経験者。315 名異動している。1 回異動が半数。無いと回答している人でも、施設内で産科から他科に移動しているという人もいよう。配布対象は助産師に配布依頼したが、今、産科で働いているかどうかは不明。

問 20: その他が多い。自由記載のデータはある。ローテーション、自分の学習のため(学校、他科での経験をつみたい?)が多い。

問 21: 満足度。①チームワーク、②専門職、③やりがい相関している。①と② $r=0.624$ 、③と① $r=0.4493$ 、③と② $r=0.53$ 。

問 22: 層別のデータで比較するように使うことが可能。

初回の就職に重きをおくのは、研究教育体制。1回目は、通勤、業務、看護の納得。2回目は通勤や勤務体制。日勤希望。最初に大きい病院で経験して、その後規模の小さい施設に異動するという状況が見える。理由の順位1から3位までというデータが得られているはず。優先順位がわかるのではないか。入力形式は1, 0のデータで入っているのが不明。

退職理由は、進学。助産師の免許取得年と初回就職、異動の関係でみることができる。1 回目は、転居、夫の転勤、2回目、出産など。

問 23: イメージが潜在助産師に比べるとポジティブではないか？診療所のイメージとしては、雇用体制は今より良くない、ケアはできていると思っている。責任は重いと思っている。責任の重さは年代による違いは無い。仲間の依存度で責任の重さを感じているかができるか？

病院で医師との関係が難しいと思っている人は、問 23 の 21 が相関するか？ $r=-0.178$ 。病院では同僚。診療所は雇用者という関係。チームワークと人間関係の違いもあるだろう。

産科診療所イメージスケールが α 係数上からも作成可能と思われる。0.8 以上はありそう。ただ

し逆転項目もあるので、作成しなおす。

問 24：17 項目の期待される能力は、以前にとった潜在助産師データと酷似しているが、両方の差をみておくことは良い。

問 25：選択肢と考えたいというのは 62.5%もいる。どの層なのか、分析を要する。

問 26：常勤希望が 400 人 (60.4%) いるのは、おそらく独身、自分で働き生計を立てているグループが多い？問 30 の月給希望と見ると、常勤は 34 万円、非常勤は 29 万円平均を希望している。

問 27：勤務日数は、常勤希望はおそらく 5 日を希望していると考えられるが、中には常勤であっても日数は少ないなど、多様な働き方を考えているかもしれない。問 26 とのクロスをして分析していく。

問 28：勤務時間も同上

問 29：勤務体制(夜勤)も同上

問 30：希望給与の差は何が影響しているか？就業を左右する大きな要因と思われるので詳細分析が必要。地域差ではない(ざっとみた)。現在の給与とは関係があるだろう。次年度の課題。

問 30-2,3,4,5 はデータの信頼性(回答者の受け取りの差がありそうで分析が厳しいかもしれない)

問 31：託児所の希望は、問 5 とクロスしてもあまり差はない。子どもの居ない人も、将来を考えて希望している。しかし、問 5-(2)子どもをみてる人の居ない人には多い。

問 31：1-13 までの項目の 12 を外すと産科診療所就業希望得点が合計させて作成可能かもしれない(α 係数 0.81)

問 32：問 25 で選択肢として考えたいは多いが、この数値は結構厳しい？何年後後に働きたい 15.1%、わからない 68.7%である。しかし、何年後かであっても働きたいとするものが 2 割程度いることもいい数字かもしれない。

問 33：希望しない理由は無回答 678 と多い。

問 34：研修は現役であっても参加したいものが 94.3%と多い。その内容は様々。

問 35：キャリアカウンセラーという言葉は一般化されているか？わからないが多いのは、就業意向が明確でないからか、言葉の問題かは不明である。

★その他：データ上、年齢と免許取得年などの齟齬の有無について、データクリーニングをかけた方が良い。(アクロスに確認)

IV. 今後の方向性

1. 平成 17 年度

本データの単純集計と一部のクロス集計分で報告をする。3 月末にはアクロスから報告書がくるので、それに本日の意見を反映する。月末に配信するので、コメントを書き込み、返信する。

2. 平成 18 年度

- ① 本データの詳細な分析
- ② 看護協会のナースセンターで実施した潜在助産師のデータと比較
- ③ ①②から、助産師が診療所に就職するための条件や、診療所の就業環境の条件をより詳細に提言する。

V. その他

次回会議は、18 年度に入り、再度調整を行う。

以上。文責 小林